第2学年　　授業改善推進プラン

1 組	30	2 組	28

１．昨年度　授業改善推進プランについての検証

国語科	音読と漢字練習は毎日の家庭学習や授業で取り組んだ。その成果もあり、音読は声を大きく出すことや気持ちを込めて読むことができるようになってきた。漢字はまた定期的に小テストを行ったので、意欲的に取り組む児童が多かった。
算数科	テストでは問題の意図をよく考えずに、問題を解いてしまっており、正解ではない答えを書いてしまうことが多く見られた。また、いろいろな種類の問題が集まると、混乱してしまうことがあった。
体育科	よくない動きとよい動きを見せて比較させることで、よい動きを自分で考えて行うことができるようにさせたい。
生活科	観察したことをそのまま書くことはできるが、そこから気付いたことや考えたことをさらに発展させて書くことが苦手な児童がいる。
音楽科	歌うことや演奏することを楽しんでいる。鑑賞では拍の流を感じながら体を動かすなど、音楽を楽しんで聴くことができる。鍵盤ハーモニカはほぼ全員の児童が正しい音で演奏することができるが、一部に取り組みが難しい児童がいる。
図画工作科	大変意欲的に活動し、表現することを楽しんでいる。やることを決められず、活動にとりかかるまでに時間がかかる児童がいる。

２．平成30年度　授業改善推進プラン

国語科

関心・意欲・態度	課題	すすんで発言する児童は多いが、指名されないと発言しない児童がいる。
	重点	ペアで話し合いをする時間を設け、自信をもって発言できるようにする。
話すこと聞くこと	課題	最後まで話を聞けない児童がいる。発表の声が小さい児童がいる。
	重点	相手に応じて話す事柄を順序立てて話すように話型を提示する。また話が終わるまで聞くことができるように指導する。発表の機会を増やし場を増やすことで慣れさせていく。
書くこと	課題	自分で見直しをせず、間違えたままになっている児童がいる。文章の組み立てを意識して書くことに課題がある。
	重点	文章を読み返したり、読み合ったりすることを通して、見直しをする。「書くって楽しいね」を活用し、個別に指導する。
読むこと	課題	ほとんどの児童は、正確に文章を読むことができる。一部の児童は文章の内容を正確に読み取ることに課題がある。
	重点	内容を正しく読まないと答えられない発問を工夫し、文章を正確に読ませる。
言語に関する知識・理解	課題	新出漢字を読み書きしていく際に、使い方や書き順などを十分に理解できていない児童がいる。
	重点	同じ部分の漢字をもつ新出漢字が出てきた際に、これまでの漢字も振り返り、児童が間違えやすい漢字の使い方や書き順などを指導していく。大田区漢字検定を有効活用し、これまでに習った漢字の定着を図る。

算数科

関心・意欲・態度	課題	計算練習などの練習問題には意欲的に取り組むが、考え方を説明したり、友達の説明を聞いたりするのに消極的になる児童がいる。
	重点	学級全員が学習内容を理解しているか確かめながら授業を展開するとともに、数学的な考え方や知識・技能を用いることのよさを感じさせるようにする。
算数的な思考・判断	課題	計算はできるが、計算の仕方の考え方を説明できない児童がいる。
	重点	具体物の操作を多く取り入れ、自力解決の時間やペアで説明し合う時間を意識的に取り入れる。
算数的な技能	課題	正しく線を引いたり、水のかさを量ったりすることや単位の計算に課題がある児童がいる。
	重点	十分に活動時間を確保し、隣同士で協力して、正確に作図や測量するようにさせる。また、他教科でも活用場面を作る。
知識・理解	課題	計算はできるが、単位の換算を苦手としている児童がいる。
	重点	量感を意識させたり、その単元だけで単位を扱うのではなく、その他の単元でも継続的に扱い定着を図る。

体育科

関心・意欲・態度	課題	楽しく運動しているが、できないことに対して取り組む際に消極的になってしまう児童がいる。
	重点	ゲームやスモールステップの活動を取り入れ、各々がめあてをもち、楽しく自信をもって運動ができるようにする。
運動に対する思考・判断	課題	より楽しく運動するために,動きを自ら工夫することが苦手な児童がいる。
	重点	ゲームの領域では、学級でルールを工夫したり、グループで攻め方や守り方を考えたりする場面を設定していく。
運動における技能	課題	ソフトボール投げが苦手な児童が多い。
	重点	ボールを投げるゲームを多く取り入れて継続的に行い、ボールを使う動きの経験を増やしていく。
安全・健康に対する知識・理解	課題	
	重点	

生活科

関心・意欲・態度	課題	よりよくするための工夫を調べることのできる児童が少ない。
	重点	児童が自分で調べることができる資料の十分な準備と、具体的な取り組みの際の事前指導を丁寧に行う。
生活に対する思考・表現	課題	活動の場面・状況に合わせて工夫を加えて取り組むことに課題がある。
	重点	学習の過程や変化に気付くカードを作成する。他教科との連携指導を行う。
気付き	課題	気付きの個人差が大きい。
	重点	自分の考えや思いを児童同士が共有する場を定期的に設けたり、掲示物などで学習過程を視覚化したりすることができるようにする。

音楽科

関心・意欲・態度	課題	音楽に興味をもって楽しく活動している。鍵盤ハーモニカの運指が円滑にできない児童が一部いる。
	重点	毎時間、鍵盤ハーモニカに取り組む時間をなるべく作り、慣れ親しませていく。
表現の創意工夫	課題	2拍子や3拍子のリズム打ちにも意欲的に正確に取り組むことができる一方で、音作りでは音のある部分と静けさのコントラストについての理解が難しい児童がいた。
	重点	歌唱や器楽の中で拍の流れの中で休符を意識させる活動を取り入れていく。
表現の技能	課題	鍵盤ハーモニカでは概ねの児童が1オクターブの音域を、指くぐりや指またぎを使って運指に気を付けて演奏することができている。しかし中には、取り組みが難しい児童がみられる。
	重点	鍵盤図を黒板に掲示して運指について確認し合ったり、技能が身に付きにくい児童には個別指導を行ったりしていく。
鑑賞の能力	課題	リズムを打ちながら鑑賞するなど意欲的に取り組めている一方、感じたことを表現する力が十分でない児童がいる。
	重点	鑑賞のめあてを明確にすることで、音楽の要素に着目させて聴くようにしていく。児童の意見を板書するなどして、感じたことを互いに伝え合うようにしていく。

図画工作科

造形への関心・意欲・態度	課題	楽しんで造形活動に取り組んでいる児童が多い。継続できるようにする。
	重点	グループでの活動や造形遊びを多く取り入れて、さらに活動への意欲を高めていく。
発想や構想の能力	課題	描くことやつくるものを決められなかったり、豊かに発想を広げられない児童がいる。
	重点	友達の作品を観る機会をつくり、様々な表現に気付かせる。 上手くいかなかったとしても、自分の表したいことを表現していく雰囲気づくりをする。
創造的な技能	課題	基本的な用具の使い方（はさみの使い方、のりの使い方、紙の角をそろえてまっすぐに折るなど）や基礎的な技能の習得が不十分な児童がみられる。個人差が大きい。
	重点	練習する時間や個別指導の時間を多く設け、教師が一人一人と関わりをもちながら指導できるようにする。
鑑賞の能力	課題	友人の作品を楽しく見たり、よさに気付いたりする活動に慣れていない児童がいる。個人差が大きい。
	重点	形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くことができるよう、感じたこと話したり聞いたりする活動を取り入れる。教師が、楽しく鑑賞する雰囲気づくりをする。